論文審査の結果の要旨

申請者氏名 傍嶋宏行

ジャスモン酸(JA)は、植物の病害抵抗性を制御する、重要な植物ホルモンの一つであるが、その作用発現機構はほとんど未解明の状態である。本研究は、JAの作用発現機構解明研究の一環として行ったもので、イネ培養細胞由来のJA応答性遺伝子 Os OPR1 の生物学的機能および発現制御機構の解析を行うことを目的としている。第1章は序論であり、JAが関与する植物の病害抵抗性発現機構と本論文の研究目的について概説している。

第 2 章では JA 処理後 2 時間のイネ培養細胞由来の cDNA ライブラリーからディフ ァレンシャルスクリーニングにより単離された JA 応答性遺伝子の一つである OsOPR1 の機能解析を行っている。OsOPRI cDNA の塩基配列解析の結果、OsOPRI は酵母 の Old Yellow Enzyme ホモログをコードしていると考えられ、シロイヌナズナ由来の 12-oxophytodienoic acid (OPDA) reductase 1 (AtOPRI)と高い相同性を示すことが わかった。OPDA reductase (OPR) は JA 生合成酵素の一つである。そこで、OsOPR1 の ORF 全長を histidine-tagged protein として大腸菌で大量発現させ機能解析を行 い、OsOPR1 が OPR 活性を有することを確認した。ところで、シロイヌナズナには3種 類の OPR が存在することが知られている。そのうち AtOPR1、AtOPR2 は天然型の(+)cis-OPDA より非天然型の (-)- cis-OPDA を基質として好むが、AtOPR3 は天然 型、非天然型 cis-OPDA を同等に効率よく還元し JA 生合成に必須な機能を果たし ていることが分かっている。そこで、OsOPR1 の基質特異性を調べた結果、基質として 非天然型の(-)-*cis*-OPDA を基質として好み、天然型の(+)-*cis* -OPDA に対しては酵 素濃度が高い場合のみ微弱な還元活性を示すに過ぎなかった。こうして、OsOPR1 は AtOPR1、AtOPR2 タイプの OPR であることが明らかになった。 イネにおいて AtOPR3 タ イプの OPR が存在するかどうかを最近公開されたイネゲノムデータベースを用いて検 索した結果、OsOPR1 のほかに 11 種類の相同性遺伝子の存在が示唆され、塩基配 列解析の結果から、それらのうち OsOPR8 と仮称された遺伝子が AtOPR3 タイプの特 徴を有することが判明した。以上の結果から、OsOPR1 の機能については、JA 生合成 に関与している可能性は残されているものの、天然型の(+)-cis-OPDA 以外に本来の 基質が存在し、ストレス応答に関連した、未知の生物学的機能を果たしている可能性 が高いと考えられる。

第3章ではOsOPRIの転写誘導機構の解明を目的としてプロモーター解析を行っ

ている。OsOPR1の翻訳開始点上流 1 kbp についてホタルルシフェラーゼ遺伝子をレポーター遺伝子としたレポータージーンアッセイを行った結果、-0.88 kbp から-0.86 kbp 間の 20 bp に JA 応答性のシスエレメントが存在することが示された。この 20 bp の領域には basic region/leucine zipper (bZIP) モチーフをもつ転写因子 TGA ファミリーの結合配列と考えられる TGACG モチーフ(TGACG1と仮称)が含まれていた。また、もう1つの TGACG モチーフ(TGACG2と仮称)が 1 kbp から 0.9 kbp 間にも見つかった。これら 2 つのモチーフにトランスバージョン変異を導入し、レポーター活性が変化するかどうかを調べた結果、TGACG1の単独変異および TGACG1、2の二重変異でJA 応答性を失い、TGACG2 の単独変異では JA 応答性がやや低下する程度であることが示された。以上より TGACG1 は OsOPR1の JA 応答性の転写活性化に必須であり、TGACG2 は TGACG1 ほどではないものの OsOPR1の JA 応答性に関与していることが示された。

以上、本論文は、単子葉植物であるイネからOPR遺伝子を初めて単離し、その機能 および発現制御機構を解析してイネのストレス応答機構を考える上で重要な知見を 提供したものであり、学術上、応用上貢献するところが少なくない。よって、審査委員 一同は本論文が博士(農学)の学位論文として価値あるものと認めた。